

1. 井上内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全担当）御発言

食品ロスの削減に向けた取組を更に加速するため、関係省庁が連携し、可能な課題から前倒しで取り組んでいくことが重要。

具体的には今後各省庁からも提案いただければと思うが、制度的観点からも検討すべき課題があると承知。

現場の声等にも耳を傾けつつ、積極的に検討を進め、食品ロス削減がより一層推進できるよう、前倒しで取り組んで欲しい。

2. 小泉環境大臣御発言

食品ロス削減は、食品の生産、加工、流通に使ったエネルギーと資源の無駄を防ぐもので、脱炭素社会と循環経済への移行の重要な要素。この移行は、グリーン社会の実現にも必要。

縦割り打破の観点から、国民が当たり前と感じている改革に、関係省庁が連携し、スピード感を持ってこれまでの取組の延長線ではない形で取り組んで欲しい。

3. 議論の進め方について、消費者庁より説明。各省より発言。

環境省：先日実施したドギーバッグアイデアコンテストにおいて、新しいネーミングとして「mottECO」（モッテコ）が大賞を受賞。外食時の持ち帰りを一層促進したい。

消費者庁：食品ロスの削減には様々な課題があり、幅広いテーマについて検討を行うべき。スピード感を持ってできるものから順次、成果を出していくこととしてはどうか。

文部科学省：学校給食の中で子供に食品ロスの問題をどのように伝えるか、議論を踏まえ取り組みたい。

厚生労働省：これまでも「外食時のおいしく「食べきり」ガイド」について食品衛生の観点から協力してきた。持ち帰りの促進について、食品衛生上の観点に留意しつつ協力していきたい。

また、生活困窮者支援の観点から、子ども食堂等の支援団体に対して、善意の食品の寄附等が円滑に進むように検討していきたい。

農林水産省：食品産業における食品ロス削減に取り組んできたが、なかなか前に進まない課題も多く、各省で連携して進めたい。一方、特に外食産業はコロナ禍で厳しい状況にあり、そのような状況も踏まえつつ取り組む必要がある。

経済産業省：コンビニエンスストア等流通における食品ロス削減について、ダイナミックプライシングを含む実証等も行いながら取り組んでいるところ。このような取組を通じ食品ロス削減を進めていきたい。

4. 今後検討すべき課題を持ち寄り、主担当及び関係省庁を決めて検討を実施することで合意。

<以上>